

Ⅲ 資料編

1. 龍野地区まちづくりビジョン検討委員会設置要綱

（設置）

第1条 龍野地区まちづくりビジョンの策定について、必要な事項を検討するため、龍野地区まちづくりビジョン検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 検討委員会は、龍野地区まちづくりビジョンの策定に係る検討及び立案を行う。

（組織）

第3条 検討委員会の委員は、別表に掲げる職にある者をもって構成する。

（任期）

第4条 委員の任期は、令和4年3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第5条 検討委員会に会長及び副会長を置く。

2 会長は、委員の互選によって選出し、副会長は、委員のうちから会長が指名する。

3 会長は、検討委員会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 検討委員会は、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。

2 検討委員会は、委員の過半数の出席がなければ、これを開くことができない。

3 会長が必要と認めるときは、検討委員会の招集を行わず、書面による協議に代えることができる。この場合において、会長は、決定事項を書面により速やかに委員へ報告するものとする。

4 検討委員会は、必要に応じて会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

（代理出席）

第7条 やむを得ない理由により、検討委員会に出席できない委員は、あらかじめ委任状を提出し、又は会長の許可を得て代理人を出席させることができる。

（会議の公開）

第8条 検討委員会は、原則として公開とする。ただし、個人情報の取扱い等については、十分配慮し、必要に応じて非公開とする等の適切な措置を講ずるものとする。

（守秘義務）

第9条 検討委員会の委員は、個人情報その他業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

（議決）

第10条 検討委員会の議決の方法は出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

（庶務）

第11条 検討委員会の庶務は、まちづくり推進担当課において処理する。

（補則）

第12条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、令和2年11月27日から施行する。

（会議招集の特例）

2 この要綱の施行の日以後最初に開かれる会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

（有効期限）

3 この要綱は、第2条の事務が完了したときにその効力を失う。

別表（第3条関係）

学識経験者
市民団体を代表する者
観光団体を代表する者
産業団体を代表する者
金融機関を代表する者
たつの市企画財政部長
たつの市産業部長
たつの市都市政策部長
たつの市教育委員会事務局教育事業部長

2. 龍野地区まちづくりビジョン検討委員会委員名簿

役員	氏 名	要綱上の区分	所属団体・役職等
会長	山 口 敬 太	学識経験者	京都大学大学院准教授
副会長	満 田 邦 弘	市民団体を代表する者	龍野地区連合自治会会長
	村 上 裕 道	学識経験者	京都橘大学教授
	浅 井 良 昭	市民団体を代表する者	龍野地区まちづくり協議会会長
	田 中 晋	市民団体を代表する者	龍野町並み保存会会長
	佐 伯 香	市民団体を代表する者	オータムフェスティバル in 龍野 実行委員会副会長
	香 山 正 博	市民団体を代表する者	町ぢゅう美術館実行委員会代表幹事
	三 木 一	市民団体を代表する者	龍野川西商店会会長
	畑 本 康 介	市民団体を代表する者	NPO法人ひと・まち・あーと代表理事
	三 木 良 男	市民団体を代表する者	かじょう会会長
	福 本 真 一	市民団体を代表する者	NPO法人 Goodstock 代表理事
	井 戸 正 文	観光団体を代表する者	たつの市観光協会龍野支部支部長
	山 本 富士子	観光団体を代表する者	龍野ふるさとガイド会長
	高 田 真 也	産業団体を代表する者	龍野商工会議所副会頭
	末 廣 卓 也	産業団体を代表する者	龍野醤油協同組合副理事長
	松 本 孝 弘	金融機関を代表する者	三井住友銀行龍野支店次長
	原 誠 吾	金融機関を代表する者	姫路信用金庫龍野支店支店長
	田 中 徳 光	たつの市企画財政部長	たつの市企画財政部長
	西 田 豊 和	たつの市産業部長	たつの市産業部長
	野 本 浩 二	たつの市都市政策部長	たつの市都市政策部長
	山 根 洋 二	たつの市教育委員会 事務局教育事業部長	たつの市教育委員会事務局教育事業部長

※敬称略

※所属団体・役職等は、令和4年3月現在のものです。

3. まちづくりワークショップ参加者名簿

参加ワークショップ	氏 名	所 属 団 体 等
自然・歴史・文化編	山 本 富士子	龍野ふるさとガイド
	森 良 行	龍野ふるさとガイド
	船 引 宗 俊	龍野ふるさとガイド
	柏 原 裕美子	龍野ふるさとガイド
	梅 本 光 子	龍野ふるさとガイド
暮らし編	真 田 忠 敏	龍野地区連合自治会
	寺 内 広 樹	龍野地区まちづくり協議会
	丸 尾 とし子	龍野地区まちづくり協議会
	森 本 浩 行	龍野地区まちづくり協議会
	矢 野 泰 之	龍野地区まちづくり協議会
	木 元 由 香	龍野地区まちづくり協議会
	中 山 さやか	龍野川西商店会
	吉 田 元 幸	龍野川西商店会
	松 本 綾 子	たつの市健康福祉部地域包括支援課
	橋 本 空	たつの市都市政策部都市計画課
	矢 原 文 也	たつの市都市政策部まちづくり推進課
	藤 井 優 介	たつの市都市政策部建築課
町並み編	伊 藤 充 弘	北龍野自治会
	高 原 養 充	龍野新町自治会
	末 廣 卓 也	門の外・柳原自治会
	真 田 忠 敏	上川原自治会
	三 村 彰	旭町自治会
	三 木 四 郎	水神町自治会
	小 林 實	下川原自治会
	武 内 富久夫	大手自治会
	紙 名 猛	福の神・立町自治会
	津 田 剛	本町自治会
	原 田 研 一	川原町自治会
	満 田 邦 弘	上霞城自治会
	湯 口 壽 夫	中霞城自治会
	武 内 憲 章	下霞城自治会
	武 内 康 文	日山自治会
	西 山 芳 信	日山河原自治会
	堀 恭 一	日山山下自治会
	塩 谷 隆 雄	日山住宅自治会

参加ワークショップ	氏 名	所 属 団 体 等
賑 わ い 編	藤 原 良 一	龍野川西商店会
	増 田 憲 昭	龍野川西商店会
	船 引 大 平	龍野川西商店会
	アーデン 歩	NPO法人ひと・まち・あーと
	黒 川 友 輝	NPO法人 Goodstock
	竹 内 一 博	龍野ふるさとガイド
	松 本 太 希	龍野商工会議所
	森 川 君 枝	龍野醤油協同組合
	竹 中 健 起	京都大学大学院
	上 田 将 嗣	たつの市産業部商工振興課
	長谷川 友 和	たつの市産業部観光振興課
協 働 編	武 内 憲 章	龍野地区まちづくり協議会
	畑 本 康 介	龍野地区まちづくり協議会
	小 林 實	龍野町並み保存会
	佐 伯 香	オータムフェスティバル in 龍野実行委員会
	富 土 田 浩	かじょう会
	横 田 清 孝	たつの市観光協会龍野支部
	濱 田 正 道	龍野商工会議所
	松 本 孝 弘	三井住友銀行龍野支店
	溝 口 徳 昭	京都大学大学院
	小 谷 慧	たつの市都市政策部まちづくり推進課
	新 宮 義 哲	たつの市教育委員会事務局教育事業部歴史文化財課

※敬称略

※所属団体等は、令和4年3月現在のものです。

4. 龍野地区まちづくりビジョン策定に係る協議経過

1) 龍野地区まちづくりビジョン検討委員会

実 施 日	会 議 名	内 容
令和2年11月27日(金)	令和2年度 第1回 龍野地区まちづくりビジョン 検討委員会	・龍野地区まちづくりビジョンの策定について ・まちづくりワークショップの開催について ・各種アンケートの実施について 他
令和3年3月22日(月)	令和2年度 第2回 龍野地区まちづくりビジョン 検討委員会	・龍野地区まちづくりビジョン基本構想(案)について 他
令和3年5月31日(月)	令和3年度 第1回 龍野地区まちづくりビジョン 検討委員会(書面協議)	・龍野地区まちづくりビジョン基本構想について ・龍野地区まちづくりビジョン策定に係る令和3年度スケジュール(案)について
令和3年7月6日(火)	令和3年度 第2回 龍野地区まちづくりビジョン 検討委員会	・龍野地区まちづくりビジョン策定に係る今後の進め方について ・まちづくりワークショップについて
令和3年12月1日(水)	令和3年度 第3回 龍野地区まちづくりビジョン 検討委員会	・まちづくりワークショップ実施結果の報告について ・龍野地区まちづくりビジョン活性化計画骨子案について
令和4年1月17日(月)	令和3年度 第4回 龍野地区まちづくりビジョン 検討委員会	・龍野地区まちづくりビジョン素案について

2) まちづくりワークショップ

実 施 日	会 議 名	内 容
令和2年12月6日(日)	令和2年度 第1回 まちづくりワークショップ	・自分のまちづくり活動の紹介と課題について ・伝建を契機としたまちづくりについて
令和3年2月28日(日)	令和2年度 第2回 まちづくりワークショップ	・各種意向調査の報告と課題、将来像(案)について ・課題を解決するための方策について 他

実 施 日	会 議 名	内 容
令和３年７月１４日（水）	令和３年度 まちづくりワークショップ （町並み編第１回）	・各自治会の空き家の状況について
令和３年７月下旬～ ８月上旬	令和３年度 まちづくりワークショップ （町並み編第２回）	・各自治会の空き家の状況の現地確認
令和３年８月５日（木）	令和３年度 まちづくりワークショップ （暮らし編第１回、賑わい編 第１回、協働編第１回）	【暮らし編】龍野地区の課題を克服する ためのアイデアについて 【賑わい編】まちなかバルの開催に向け て 【協 働 編】龍野地区の活性化のために、 ふさわしい組織の在り方につ いて
令和３年９月３日（金）	令和３年度 まちづくりワークショップ （暮らし編第２回、賑わい編 第２回、協働編第２回）	【暮らし編】高齢者や住民への情報提供 の具体的方策について 他 【賑わい編】龍野版まちなかバル「一六 夜店（仮）」の実施に向けて 【協 働 編】新組織の活動イメージにつ いて 他
令和３年１１月４日（木）	令和３年度 まちづくりワークショップ （町並み編第３回）	・空き家調査結果・意向調査結果の報告 ・空き家情報を更新する仕組みについて 他
令和３年１１月２１日（日）	令和３年度 まちづくりワークショップ （自然・歴史・文化編）	・龍野地区住民を対象とした、龍野ふる さとガイドの案内による「まち歩き」 『自分のまち 龍野地区の魅力をもっ と知ってみよう』
令和３年１２月７日（火）	令和３年度 まちづくりワークショップ （暮らし編第３回、賑わい編 第３回、協働編第３回）	【暮らし編】暮らしの困り事の拾い出し の手法について 他 【賑わい編】龍野版まちなかバル「一六 夜店（仮）」の実施に向けて 【協 働 編】新組織の具体的なイメージ について

5. まちづくりワークショップの取組

1) まちづくりワークショップ開催の概要

基本構想における「めざすべき地区の将来像」の実現に向け、地区に対する住民の思いや地区の課題等を抽出することを目的として、まちづくりワークショップを開催しました。

ワークショップの開催に当たっては、基本構想で設定した5つの基本柱ごとにテーマを絞り、そこで出された意見を基にアクションプランを作成しました。

また、ワークショップを開催することで、今後のまちづくりを担っていく主体形成を行い、住民の自主的で継続的な行動づくりを喚起しました。

自然 歴史 文化

自然・歴史・文化について、楽しみながら学べる機会づくりの検討

龍野地区は、自然、歴史、文化的資源を豊富に有していますが、住民にとっては、身近にあるために、その大切さや価値を十分に認識できていません。

こうしたことから、住民が自分のまちの魅力を改めて学習する機会として、龍野ふるさとガイドの案内による楽しく学べるまち歩きを開催しました。

暮らし

安全・安心、快適に住み続けられるまちづくりの検討

住民アンケートや各自治会へのヒアリングなどの結果から、龍野地区内では、食料品や日用品の買い物先等の不足による生活利便性の低下やコミュニティの希薄化などが大きな課題となっていることがわかりました。

こうした課題を克服し、住民一人ひとりが暮らしの楽しみを実感するとともに、安全・安心で快適に住み続けられるまちづくりを実現するための検討を行いました。

町並み

空き家問題を解消し、歴史的町並みを保存していくための検討

空き家等の増加は、龍野地区内の喫緊の課題であり、住民の安全・安心の確保や町並みの保存のためには、地区全体としての取組が求められています。

こうしたことから、住民が空き家問題を地区の最重要課題として認識し、空き家の解消に向けて、地区内の意識を高めていくことを目的として、空き家の現地調査を実施するとともに、活用方策についての検討を行いました。

賑わい

賑わいを創出し、まちに活力を取り戻す方策の検討

龍野地区を訪れる人へのおもてなしや地区住民と来訪者がともに利用できる店舗の在り方について議論を重ねました。

その中で、かつて開催されていた一六夜店を復活させることで、地区住民に地区内の店舗を知ってもらい、今後増加が見込まれる来訪者にも龍野地区の魅力を発信できるよう、地区内の共通意識の醸成について検討を行いました。

協働

まちづくり運営組織の在り方の検討

龍野地区では、様々な団体が地区に愛着と誇りを持って活動を続けていますが、連携が図られていないために、全体のエネルギーにつながっていないのが現状です。

そのため、地区内の各種団体のエネルギーを統括して、地区全体のまちづくりの力に変えていく組織を設立し、様々な活動を推進していくための方策を検討しました。

番外編

まちづくりワークショップ番外編

それぞれのワークショップでは検討しきれなかったことなどを協議する場として、かどめふれあい館において、番外編を7回開催しました。

まちづくりワークショップの参加者だけではなく、龍野地区まちづくりビジョン検討委員会の委員や地区住民への呼び掛けを行い、具体的な活性化策や組織のあり方について、議論を重ねました。

2) まちづくりワークショップにおける意見等の活性化計画への反映

まちづくりワークショップで参加者から出された意見や感想等を活性化計画の施策へ下記のとおり反映させました。

まちづくりワークショップでの意見や感想等を反映させた施策

自然 歴史 文化

②龍野地区の魅力である日常生活の中に根付いている文化（アート、茶道、醸造等）を磨く。

- 2) 龍野検定の実施
- 3) 龍野地区の学習会の実施
- 4) 龍野ふるさとガイドの育成、進化、拡充

③子どもへの教育・体験を通して誇れる文化を継承する。

- 1) 市民が学ぶ龍野地区ガイドワークショップの実施
- 2) 小学校と連携した「ふるさと学習」機会の提供

暮らし

①食料品や日用品の買い物先の確保に努め、安全で安心な暮らし、生活の利便性を向上させる。

- 1) (仮称)「まちの会所」づくりの推進（暮らしサポート編）
- 2) 誰もが安心して使える公園の整備

②防災対策等を通じて、地区住民の調和を図り、コミュニティの育成を進める。

- 2) 防災訓練の実施

町並み

③空き家活用等により、移住者の住まいや活動の場を確保し、空き家の有効活用を図る。

- 1) 空き家活用の促進
- 2) 空き家情報の収集と一元的管理

賑わい

①個人で訪れ、まち歩きをゆっくり楽しむ仕掛けをつくる。

- 2) 来訪者動線の明確化及び龍野地区内の交通システムの構築
- 3) サイン・案内板設置の推進

②重伝建地区をはじめ、質の高い歴史・文化・伝統に育まれた資源を生かす。

- 1) 公開施設整備の推進
- 2) (仮称)「ちょっと見ん家」整備の推進

③龍野地区の誇りを持った住民とその価値を理解する来訪者により観光・交流を推進する。

- 1) (仮称)「まちの会所」づくりの推進（交流編）
- 2) 令和版「一六夜店」の開催
- 3) 既存イベントの継続的な実施

④一元化した情報発信で龍野地区の魅力と価値をアピールする。

- 1) (仮称)「まちの会所」づくりの推進（ガイドダンス編）
- 2) 情報の一元化と発信
- 3) キャッチフレーズ・ロゴマーク等の作成

協働

①地区や組織を超えた横のつながりをつくる。

②活動を継続していく仕組みをつくる。

③龍野地区全体で情報を共有する。

④龍野地区と行政が協働する。

- 1) まちづくり運営組織の設立

3) まちづくりワークショップの取組内容

① 自然・歴史・文化編

龍野地区の住民が、自分たちのまちの自然・歴史・文化等の魅力を楽しみながら学ぶことができる取組として、龍野ふるさとガイドの案内により、地区内の3つのルートを巡るまち歩き『自分のまち 龍野地区の魅力をもっと知ってみよう』を開催しました。

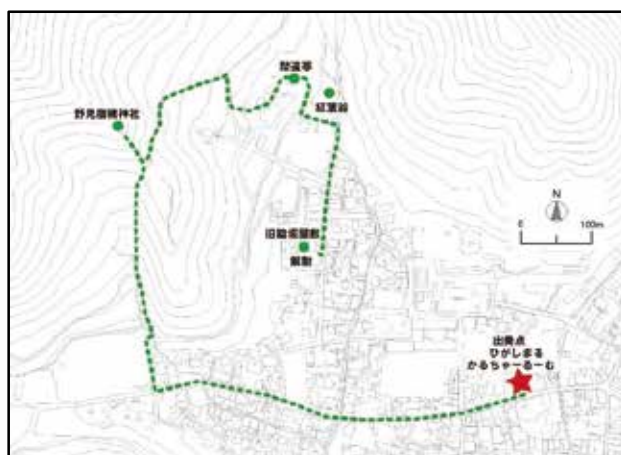
(1) 開催概要

第1回	日 時	場 所	参加者
令和3年 11月21日(日)	13:30~16:00	龍野地区内	23名
内 容	龍野地区住民を対象とした、龍野ふるさとガイドの案内による「まち歩き」『自分のまち 龍野地区の魅力をもっと知ってみよう』の開催		

＜ルート① しんらばんしょう 森羅万象（参加者13名）＞



『ルート①森羅万象』は、「祖の足跡をたどり、生きとし生けるものに想いを馳せる」をテーマに、野見宿禰神社から聚遠亭を抜け、紅葉谷を通り、旧脇坂屋敷に至るルートを歩きました。紅葉が美しい景色の中で、普段あまり通ることのない山道を歩き、ガイドの案内により龍野の地名の由来や龍野藩主である脇坂家の歴史等を学びました。



たつの はっこうものがたり
<ルート② 龍野発酵物語 (参加者7名)>



『ルート②龍野発酵物語』は、「龍野の気候風土×技術が醸す発酵物語に親しむ」をテーマに、うすくち龍野醤油資料館から門の外、下川原を巡るルートを歩きました。うすくち龍野醤油資料館では、ガイドの解説により龍野の醤油の歴史を学び、末廣醤油と井戸糴店では、普段目にする事ができない、醤油と糴の製造工程を見学し、改めて地場産業の持つ魅力を確認しました。



けいおうかいらい
<ルート③ 継往開来 (参加者3名)>



『ルート③継往開来』は、「先人たちの営みに触れ、龍野の未来を想う」をテーマに、本町から川原町を抜け、日山を巡るルートを歩きました。名作映画のロケ地や龍野地区のかつての町並みを再現したジオラマ等を見学し、龍野の先人が辿った歴史に想いを巡らせました。



(2) 参加者への意向調査結果



・まち歩きに参加した目的（複数回答可）

龍野のまちのことを知りたかった	14	60.9%
家族やグループででかけるきっかけになった	8	34.8%
近場で散策したかった	6	26.1%
行きたい場所がコースに入っていた	4	17.4%
味噌や醤油のことが知りたかった	4	17.4%

・満足度

満足	15	65.2%
やや満足	8	34.8%
普通	0	0.0%
やや不満	0	0.0%
不満	0	0.0%

・満足、やや満足の理由（複数回答可）

ガイドの説明がわかりやすかった	16	69.6%
景色が良かった	8	34.8%
龍野地区の見どころを知ることができた	7	30.4%
新しい店や施設を知ることができた	3	13.0%
醤油や味噌など地元の産業にふれることができた	1	4.3%
ガイドや地区の人と交流できた	1	4.3%

・今後このような取組があれば、参加したいか。

是非参加したい	16	69.6%
予定が合えば参加したい	2	8.7%
内容によって参加したい	1	4.3%
参加しない	0	0.0%
わからない	3	13.0%
無回答	1	4.3%

（３）今後の取組に向けて

- 地区住民が地区の魅力や資源について、知りたいと感じている。今後も継続的に取り組むべき催しである。
- このような取組に若い世代や子どもたちに参加してもらい、ふるさと龍野を語れる人材を育成する必要がある。
- ふるさとガイドが重伝建地区に関することや、地区内の新しい取組・資源について、確かな知識に基づき、案内を行う必要があるため、今後研修や講習会を積み重ねていくことが重要である。
- ふるさとガイドが自らも楽しみ、やりがいを感じながらスキルアップできる研修などを強化させる必要がある。

② 暮らし編

龍野地区内の大きな課題である生活利便性の低下やコミュニティの場の減少を克服し、暮らしの充実が実感できるまちづくりを実現することについて協議しました。

第1回	日 時	場 所	参加者
令和3年8月5日（木）19：00～21：00		たつの市役所多目的ホール	7名
内 容	龍野地区の課題を克服するためのアイデアについて		



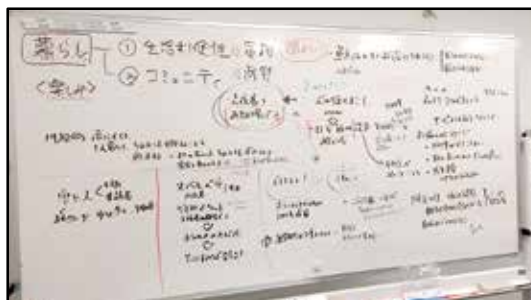


＜主な意見＞

- ・大きな課題は、「暮らしの利便性の低下」「コミュニティの希薄化」「道路の狭さ」「防災」である。
- ・高齢者に今あるサービス（大型量販店の個配など）の情報の手助けを行うことで、生活が豊かになる。
- ・住民ニーズが多様化する中で、大きな場づくりだけではなく、気軽に集まれる「小さな場」を作り、それらが全体でつながるような仕組みが必要である。
- ・来訪者が増加すると見込まれる中で、住民の安全の確保が重要である。

第2回	日 時	場 所	参加者
令和3年9月3日（金）19：00～21：00		たつの市役所 301 会議室	9 名
内 容	高齢者や住民への情報提供の具体的方策について 他		

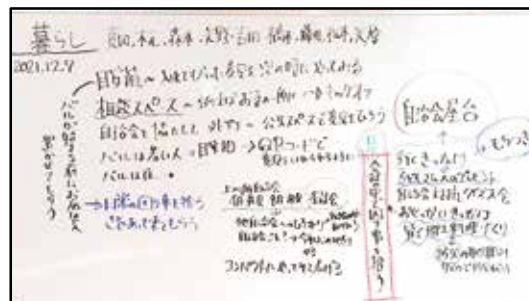




＜主な意見＞

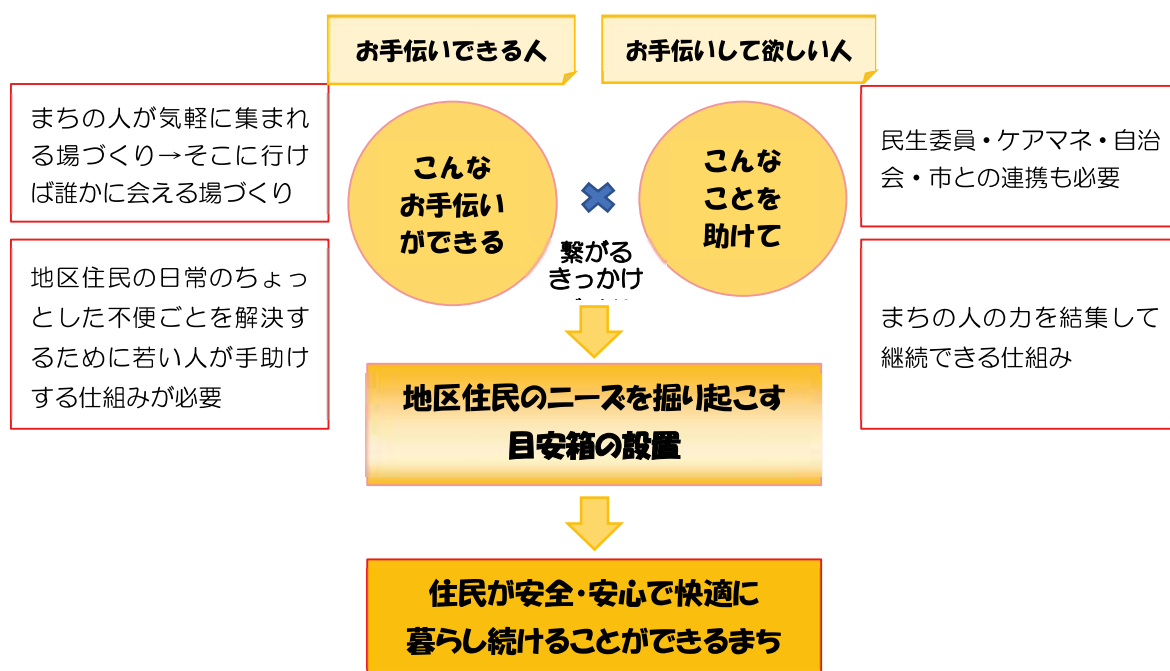
- ・わらしべ市やマーケットなど個々の取組はあるが、主催者の都合で継続できないことがある。継続して実施できるように、個人の力だけではなく、連携した取組にする。
- ・高齢者等を手助けしたい人は地区内にもいて、ネットワークもある程度できているが、高齢者がどのような事で困っていて、どのような助けを必要としているのか、把握できていない。目安箱のようなものを設置して、ニーズを掘り起こしたい。
- ・令和版一六夜店の開催にあわせ、その一画に遊び場と目安箱のブースを設置することができるかもしれない。
- ・龍野地区内で活動する個人や団体の概要と活動スケジュールを情報収集し、可視化する作業が必要である。

第3回	日 時	場 所	参加者
	令和3年 12月7日(火) 19:00~21:00	たつの市役所多目的ホール	9名
内 容	暮らしの困り事の拾い出しの手法について 他		



＜主な意見＞

- ・目安箱をいつ、どのように設置して、意見を拾い上げるか。令和版一六夜店のときに意見を拾い上げるということではなく、予めお店などに置いておき、令和版一六夜店のときに「お助け（サポート）」を実施してみる。
- ・令和版一六夜店などのイベント時に会場の一角に相談コーナーを設ける。
- ・目安箱にQRコードを記載し、意見を投稿できるようにしたら良い。（若い世代向け）
- ・例えば、子ども用にプレゼントを用意して、お年寄りと孫が一緒に来てもらったり、自治会対抗クイズ大会、餅つきなど、手法をいろいろ考えて、お年寄りが来て、意見を言いやすい方法を考える。誘い合って来てもらう「きっかけづくり」が大事である。
- ・皆で昔から食べている料理作りを実施し、防災の取組と繋げる。
- ・上川原自治会で実施している4月「お花見」、9月「月見」「茶話会」などの行事を地区の壁を取り払って開催する。例えば今年は上川原＋旭町＋水神町など。
- ・「おせっかい」できっかけづくりをし、日常の会話の中で困り事のニーズを探っていく。
- ・コンパクトに始めて、広げていくのが良い。



③ 町並み編

住民の安全・安心の確保と歴史的町並みの保存のために、空き家の解消は、龍野地区の最重要課題の一つであるため、空き家に対する地区内の意識を高めることを目的として、各自治会長が空き家の現地調査や地図への落とし込みを実施しました。

第1回	日 時	場 所	参加者
	令和3年7月14日(水) 19:00~21:00	中央公民館	16名
内 容	各自治会の空き家の状況について(空き家リストの作成及び地図への落とし込み)		

＜■各自治会長による空き家リストの作成及び地図への落とし込みの様子＞



第2回	日 時	場 所	参加者
	令和3年7月下旬~8月上旬	各自治会	17名
内 容	各自治会の空き家の状況の現地確認		

＜■各自治会長による空き家の現地調査の様子＞



第3回	日 時	場 所	参加者
令和3年11月4日(木)	18:30~20:30	たつの市多目的ホール	17名
内 容	空き家調査結果・意向調査結果の報告、空き家情報を更新する仕組みについて 他 (龍野地区における空き家の現状と活用方策について)		

<■第1回及び第2回ワークショップの結果を基にした空き家の状況>

	調査数	空き家数	調査の結果非空き家と判明した件数	郵送意向調査配布数	郵送意向回収数
北龍野	27	23	4	2	2
龍野新町	13	10	3	1	1
門の外・柳原	21	19	2	8	6
旭町	51	30	21	5	4
水神町	16	8	8	4	1
上川原	12	11	1	3	3
大手	10	5	5	0	0
下川原	17	8	9	2	1
上霞城	17	15	2	4	2
中霞城	16	10	6	4	2
下霞城	24	11	13	2	0
福の神・立町	15	13	2	3	1
本町	16	11	5	1	1
川原町	15	8	7	1	0
日山・日山山下・日山河原・日山住宅	48	45	3	8	6
合 計	318	227	91	48	30



項 目	回答数	比 率
売却したい	7	38.9%
活用等の方法について相談したい	3	16.7%
使いたい個人や団体がいれば貸して活用してほしい	2	11.1%
解体撤去したい	2	11.1%
今後考えたい	2	11.1%
自分で活用したい	0	0.0%
何もするつもりはない	0	0.0%
その他	2	11.1%

※意向調査の回答者のうち、「空き家を活用したい」と回答した18名を対象としている。

<主な意見>

- 空き家の所有者は、最初から放置しようと思っているのではなく、どうしたら良いか悩んでいるうちに日が経ってしまっている。空き家をどうしたら良いのかを考えるヒントをもらえるような機会や仕組みが欲しい。
- 「龍野地区空き家管理部門」の設立は、「自治会＋市＋民間」でうまく運営できるようになると良い。
- 空き家予備軍への働きかけ、空き家物件のコーディネートができる組織、空き家活用の意向を持つ人への素早いアプローチが必要である。
- 川原町など、空き家を店舗に活用する動きが見られるが、住まない人が多い。こういった人たちへ働きかけて、定住促進につながるようにすることが重要である。
- 伝建地区と伝建地区以外の比較的新しい住宅街の空き家問題には違った課題がある。分けて考えた方が良いのではないかなと思う。

④ 賑わい編

地区住民に地区内の店舗等について認識を深めてもらう機会として、また、龍野地区を訪れる人にまちの魅力を発信する取組として、かつて龍野地区で開催されていた一六夜店を復活させ、「龍野版まちなかバル」として開催し、まちに賑わいを取り戻すことについて協議しました。

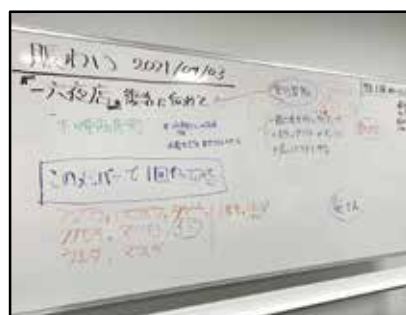
第1回	日 時	場 所	参加者
	令和3年8月5日（木）19：00～21：00	たつの市役所多目的ホール	7名
内 容	まちなかバルの開催に向けて		



＜主な意見＞

- ・まちなかバルの龍野地区バージョンとして、かつて龍野地区で行われていた「一六夜店」「土曜夜店」を復活させる取組に向けて検討していく。
- ・一六夜店や土曜夜店の頃の事を知っている人に教えてもらいたい。
- ・開催時期は、他のイベントなどのスケジュールや店舗の繁忙期などを勘案して検討する。

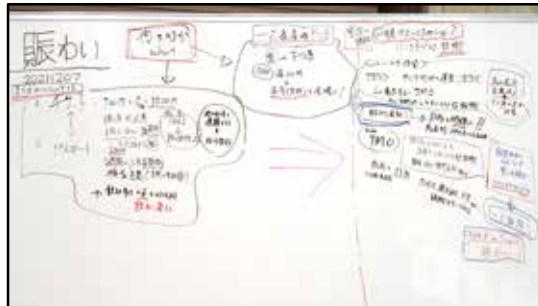
第2回	日 時	場 所	参加者
	令和3年9月3日（金）19：00～21：00	たつの市役所 301 会議室	10名
内 容	龍野版まちなかバル「一六夜店（仮）」の実施に向けて（一六夜店の取組について）		



＜主な意見＞

- ・賑わいワークショップの今年度の取組として「一六夜店」の復活について検討する。
- ・一六夜店の中でのコアイベントをまちなかバルとし、下川原商店会や飲食店に限らず様々な店舗に参加してもらう方法を考える。
- ・現在のワークショップ参加者以外への呼び掛けを検討する。

第3回	日 時	場 所	参加者
	令和3年 12月7日（火）19：00～21：00	たつの市役所多目的ホール	7名
内 容	龍野版まちなかバル「一六夜店（仮）」の実施に向けて （一六夜店実施の具体的手法と継続するための仕組みについて）		



＜主な意見＞

- まちなかバルの実施手法について

チケット方式 = 実施期間は、2日程度（短期）。

同じ店舗でチケットを使えるので回遊性はあまり良くないが、他のイベントとの連携性は良い。

事務局でチケットを販売するので、店舗による換金の手間が必要になる。

パスポート方式 = 実施期間は、2週間から1ヶ月程度（長期）。

同じ店舗でバルメニューは2回使えないので、回遊性は良い。

換金の手間が要らない（店舗側の負担が少ない）。

- 一六夜店の実施手法について

昔は、下川原商店街のみで実施していたが、今回行くとすれば、実施範囲を広げる。道路は、許可などが必要になるので、寺（民地）を会場とする。

- 龍野地区の皆が楽しむ「賑わい」のための一六夜店となることが重要である（地元のための賑わい）。
- 継続していくためにはバックアップする組織（まちづくり会社等）が必要である。

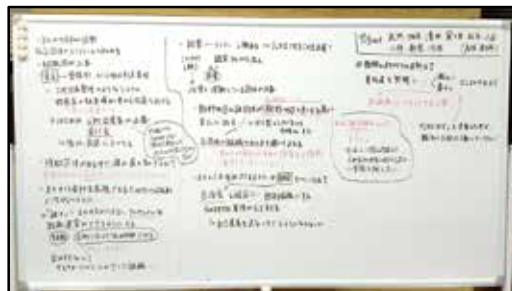
⑤ 協働編

龍野地区には、数多くの団体が存在し、それぞれがまちの発展を考え、活動していますが、一体性がないため、外部への発信力が欠けていることが課題となっています。地区内の多様なまちづくり活動を認め合い、協働してまちの将来像を実現するための統一的な組織づくりについて協議しました。

第1回	日 時	場 所	参加者
	令和3年8月5日（木）19：00～21：00	たつの市役所多目的ホール	7名
内 容	龍野地区の活性化のために、ふさわしい組織の在り方について (龍野地区の課題を克服するためのアイディア)		
			
			
＜主な意見＞ ・地区内の多様・多彩な活動が統一性の欠如を生んでおり、外部への発信力に欠けている。 ・個々の活動を尊重しながら、まとめられるようなイメージの組織が必要である。 ・まずは龍野地区内での情報共有のために粒坐神社の枠組から始めて、龍野地区だけでなく、小宅地区や御津地区ともネットワークする体制づくりが必要である。 ・まちの「お墨付き」をもらい、若い人もリーダーシップをとれる仕組みを検討するべきである。			

第2回	日 時	場 所	参加者
	令和3年9月3日（金）19：00～21：00	たつの市役所 4 階大会議室	8 名
内 容	新組織の活動イメージ等について 他		





＜主な意見＞

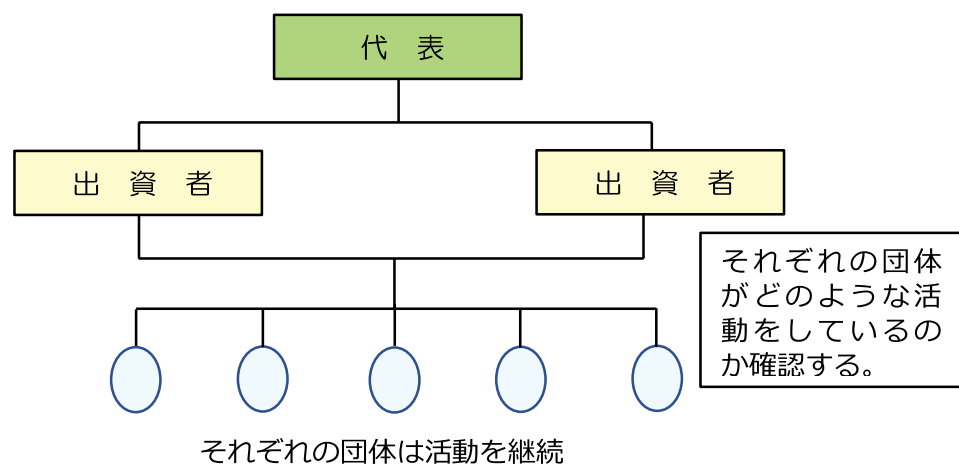
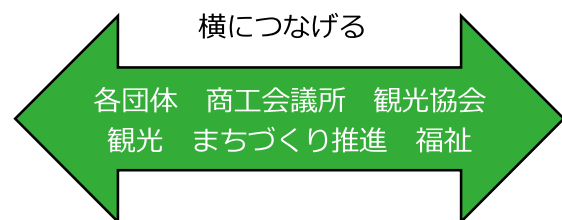
- ・龍野地区の各団体の活動の根底には、「龍野地区住民の暮らしをよくするため」という漠然とした目的がある。新組織は、各団体に組織の在り方について話を聞いて全体を調整し、まちの経営とソフト、どちらも担う役割が求められる。
- ・まちづくり会社を存続させるためだけの活動にならないように、目的に向かった短期的な協力体制（プロジェクトチーム）を作るといった、フレキシブルな組織運営ができる必要がある。
- ・まちの人も参加できるよう、組合という形態も一つの可能性ではないか？

第3回	日 時	場 所	参加者
	令和3年 12月7日(火) 19:00~21:00	たつの市役所多目的ホール	6名
内 容	新組織の具体的なイメージについて		



<主な意見>

- 横につなげる
皆で集まって同じ立場で話し合うことから
スタートする。



- 各団体の事業計画を持ち寄り、総会を開く。
- 組織で取り組む収益事業を確立させる。
- 若者・個人の出店を支援する。(チャレンジショップ)

課題

- 収益事業を地元はどう受け入れてもらうか。一部の団体が金儲けをしていると誤解する人もいる。結果的に稼ぐとしても、地域全体への経済循環であることを理解してもらう必要がある。

6. まちづくりワークショップ参加者の意見

1) 自然・歴史・文化編

龍野地区住民の皆さんを対象に、まちの魅力を再発見するワークショップに参加させていただきました。現地を訪れ、目で見て学んでいただくことの大切さを改めて実感しました。

普段、来訪者向けにガイドを行うことが多いですが、住民の方こそ龍野地区の歴史、文化等の魅力を知っていただきたいと思っています。今後は、市民の皆さんにも参加していただけるよう取り組んでいきたいです。

また、これまで龍野小学校の児童が行ってきた「ふるさと学習」も大変貴重なものだと思います。子どもの頃に自分の住むまちのことを学習することは、郷土愛を育み、将来的には「龍野に住みたい」「龍野でお店を開きたい」など、ふるさと回帰にもつながるのではないかと考えています。

龍野地区の今昔に興味を持ち、まちのことを知りたい子どもはたくさんいます。こうした取組を継続することにより、地区をPRできる人材の育成に少しでも貢献していきたいです。

龍野ふるさとガイドは、今後も月 1 回の勉強会を行い、知識を高め、おもてなしの心を持って龍野地区の魅力を伝えられるよう努力していきたいと思っています。

山本 富士子（龍野ふるさとガイド会長）

2) 暮らし編

重伝建の制度を活用して落ち着いた町並みを維持しながら、生活しやすく、ほどよい賑わいをもったまちにしていくためにはどうしたら良いのか。行政だけでは限界があり、そこに住む方々のマンパワーが不可欠であることを、ワークショップに参加させていただき、再認識しました。

地区内には、まちづくりのために地道に活動されている団体が多く存在しているのは財産ですが、活動内容が広がっていないように感じます。

今後は、ワークショップで出た貴重な意見を基に、既存の活動をうまく集約、バージョンアップし、具体的な形にしていく必要があります。時間がかかることですが、住民と行政とが連携しながら、粘り強く継続した取組を進めていくことが大切だと思っています。

ワークショップに参加させていただき、様々な方の話を聞くことで刺激を受けることができました。今後もワークショップ委員の一員として、龍野地区の将来像実現に向けて、お手伝いできればと思っています。

真田 忠敏（上川原地区自治会長）

3) 町並み編

今回参加させていただいたワークショップは、空き家のリストアップだけではなく、地図に落とし込むことで視覚的に把握するものであったため、非常に有意義なものでした。今後、空き家は増加することが予想されますので、今回のような活動を継続して実施し、情報を更新していくことが重要であると感じました。

また、ワークショップで他の自治会長と議論することで、地区内には、高齢の単身世帯が増加傾向にあり、空き家の予備軍となる物件が多いことも知ることが出来ました。これからは、空き家となってしまう前に、次の管理者や活用者を特定しておくことも重要であると認識することができました。

幸いにも、龍野地区内には、「たつの市空き家相談センター」があります。立地条件を生かし、気軽に相談に行けるよう、自治会が連携して周知、案内を行い、まちづくり運営組織や行政とも協力して、空き家の発生を抑制する取組に力を注いでいきたいと思います。

満田 邦弘（龍野地区連合自治会長）

4) 賑わい編

今回、私は「賑わい編」のワークショップに参加させていただきました。会議の中では、過去の「龍野」の賑わい方を勉強し、今後、賑わいや活気を取り戻すためにはどうしていったら良いのかを話し合いました。

特に話の中で盛り上がったのが、下川原商店街を中心に行われていた「一六夜店」についてでした。その時の写真を見たり、当時を知る方の話を聞いたりした結果、一六夜店は、地元の商店主や住民が一体となって参加していたことを知り、これこそ、まちが賑わうということの理想の形ではないかという話から、一六夜店の復活を提案することになりました。

しかし、下川原商店街の状況は当時と全く違うものであったり、近年、龍野城下町に移住されてきた方や新しく店舗を構えられた方が増えてきたりしたことを考えると、一六夜店の復活を図る上において、官・民・商や各種団体が今よりもっと交流しやすい機会を設け、互いに盛り上げていくような関係づくりが必要と考えます。

私は龍野地区の住民として、またそこで社会生活を行う現役の人間として、これらの意識をもちながら今後の社会活動に生かしていくとともに、これから龍野城下を担っていく人や移住されてくる方に継承されていくよう努めてまいりたいと思います。

船引 大平（龍野川西商店会）

5) 協働編

様々な世代・立場の人と語り合えたのは素直に楽しかったです。新たな店舗や移住者との接点を多く持つ私にとって、改めて振り返りと気づきを得る貴重な場でした。

城下町が変化していくことへの様々な考え方があって、「暮らしと観光の共存」というキーワードに落ち着いたと認識しています。このまちに住み、子どもを小学校へ通わせる親としても共感していますが、観光事業者の中には、「大勢の方が訪れる観光地になることを将来像とするべき」などと思われる方もいらっしゃるかもしれません。けれども、この城下町の暮らしは、とても貴重です。この暮らしや文化そのものが観光資源となり、憧れのまちと言われることを信じています。

来街者が竜野橋を渡るとき、「お邪魔します」と心で唱えていただけるようなまちであり続けるために、自分自身が、このまちの文化と情緒に溢れる暮らしの実践者となれるよう、研鑽し続けたいと思います。

畑本 康介（龍野地区まちづくり協議会）

今回、ワークショップに参加させていただき、「わがまち龍野」について、改めて考える良い機会となりました。

私が参加したワークショップの協働編においては、まちの将来像を達成するため、龍野地区をとりまとめる統一的な組織の必要性について議論しました。その中で、既存の団体や住民が協働しながら、収益を上げ、継続して活動する団体が必要であると感じました。すぐにそのような組織を立ち上げることは難しいと思いますが、これから、先進的な地区の事例を研究するなど、龍野に合った、無理のない組織の設立に向け、微力ながら協力させていただきたいと思います。

このワークショップは、龍野地区の活性化に向けた第一歩だと思っています。龍野地区まちづくりビジョンの策定を機に、今まで以上に住民と行政が一緒になって、地区の活性化のための取組を進めていく必要があると強く実感しました。

小林 實（龍野町並み保存会副会長・下川原自治会長）





龍野地区まちづくりビジョン



発行：令和4年3月

たつの市 都市政策部 まちづくり推進課

〒679-4192 たつの市龍野町富永1005番地1

TEL：(0791)64-3167 FAX：(0791)63-2594

E-mail：machizukuri@city.tatsuno.lg.jp

URL：https://www.city.tatsuno.lg.jp